



アマゾン ウェブ サービスのクラウドが選ばれる

10の理由

アマゾン ウェブ サービス (AWS) は、2011年に日本初のリージョンである AWS アジアパシフィック (東京) リージョン、2021年に AWS アジアパシフィック(大阪) リージョンを開設、今日では、全世界でお客様の数(*)は数百万を超え、日本でも数十万を超えるお客様にご利用いただいています。このカタログでは、AWS のクラウドがお客様に選ばれている10の理由をご紹介します。

(*) お客様とは、アクティブカスタマー数を指します。

アクティブカスタマーとは、AWS クラウド無料利用枠を含む AWS アカウントの先月の使用状況のあるアマゾン会員でない対象アカウントです。

C O N T E N T S

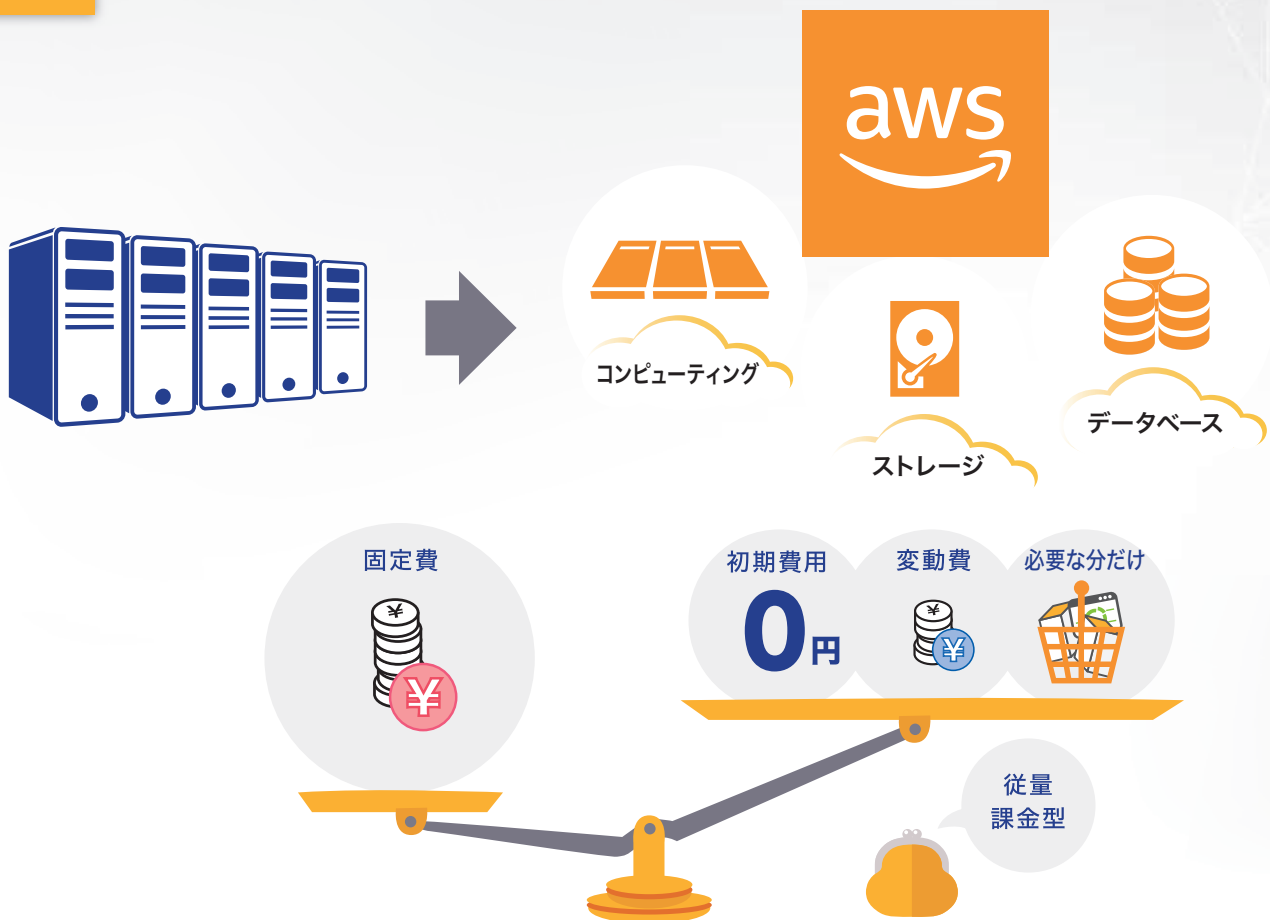
理由 1		初期費用ゼロ／低価格	3 P
理由 2		継続的な値下げ	4 P
理由 3		サイジングからの解放	5 P
理由 4		商機を逃さない俊敏性	6 P
理由 5		最先端の技術をいつでも利用可能	7 P
理由 6		いつでも即時グローバル展開	8 P
理由 7		開発速度の向上と属人性の排除	9 P
理由 8		マネージド型サービスによる運用負荷の軽減	10 P
理由 9		高いセキュリティを確保	11 P
理由 10		24時間日本語によるサポート	12 P - 13 P

アマゾンウェブサービスのクラウドが選ばれる





初期費用ゼロ／低価格



必要な時に、必要な分だけ、低価格でITリソースを調達可能

初期費用無料

従来、新しいインフラの構築には緻密な要件定義からハードウェアの調達、設置、そしてデプロイと複雑かつ長いリードタイム、高い初期投資が必要でした。AWS では初期費用なしで、ビジネスニーズの発生とともに柔軟にITリソースを確保することが可能です。

従量課金

利用量に応じた従量課金型でご利用になれるため、必要なタイミングで簡単に立ち上げ、必要がなくなったときにサービスを停止し、データを削除いただくことでその時点で課金は停止します。繁忙期など必要なタイミングで必要な分だけITリソースの増強も可能です。従来は予測をもとに設備投資を行うことが一般的でしたが、AWS の利用量および時間(秒または時間単位)で課金されるモデルのため、新しいプロジェクトの立ち上げや実験的なサービスの検証など、スモールスタートが可能に、また撤退コストの最小化を実現します。

透明性の高い価格

提供価格はウェブサイトでご確認いただけます。



継続的な値下げ

コストダウンを推進

規模の拡大とイノベーション

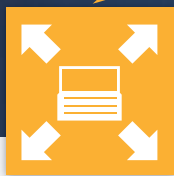
利用中に費用が
低下するIT基盤技術革新による
ITコストの低下サービス開始から**129回**以上の値下げを実施

利用中にコストが低下する IT リソース

AWS は2006年のサービス開始以降、非常に速いスピードでサービス提供規模を拡大しています。今日では東京リージョン、大阪リージョンなど日本を含む世界中で31のリージョンを運営し、お客様に実質的に制限のないITリソースを提供しています。このスケールメリットにより、サーバーの調達コストやデータセンター、ネットワークなどの維持コストは低下の一途を辿っています。さらに、新たな技術革新、サービス提供によるコスト最適化も継続的に行うことで、お客様への提供価格の値下げに繋がっています。

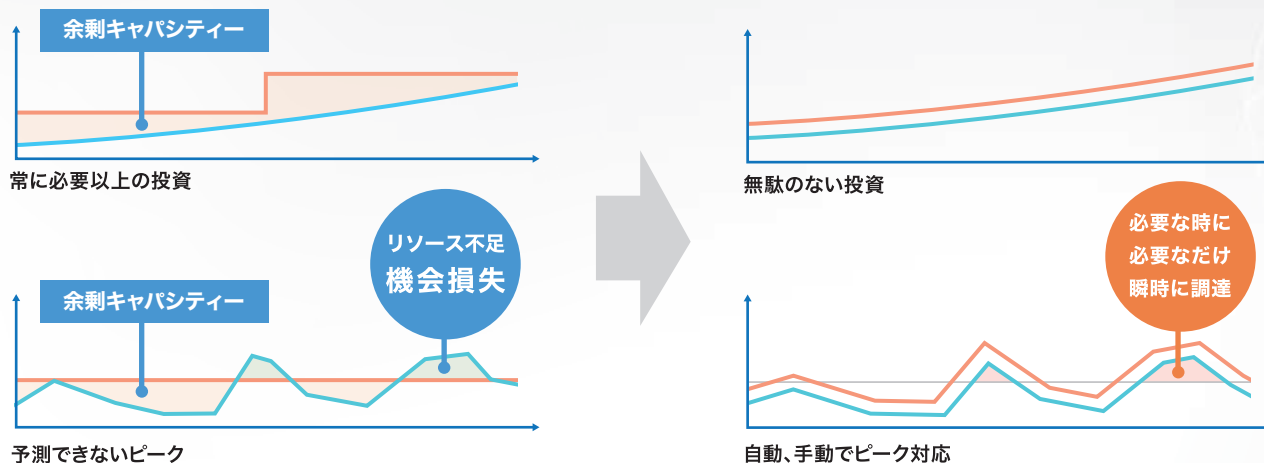
継続的な値下げによるお客様への還元

AWS では、定期的コスト低下分をお客様に還元することで、サービスを開始してから129回以上の値下げを実現しています。これにより、例えば保守費用の値上げなどが利用期間中に発生せず、逆にお客様が負担するITコストの単価は低減し続けます。また、透明性のある価格設定、自動的な値下げにより、提供価格の比較や費用低減の交渉など不要でご利用いただけます。

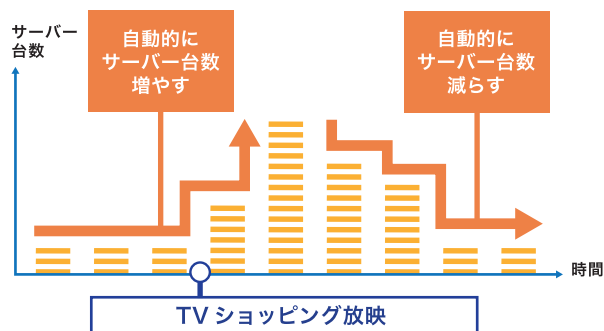


サイジングからの解放

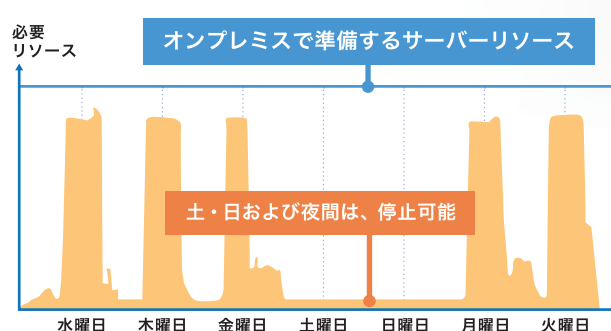
緻密な需要予測と初期投資が不要に



自動化された伸縮性



基幹システムの稼働率



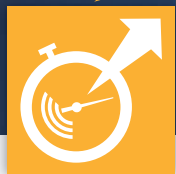
柔軟に変更可能なITリソース

AWS では必要なときに数クリック、数分間でサーバーの台数の増減が可能です。また今稼働しているサーバーのCPUやメモリ、ストレージのサイズを変更することも可能です。これにより、たとえば日中と夜間で稼働しているサーバーのスペックを変更することや、夜間や週末にサーバーを停止して利用料を削減することも可能となっています。また繁忙期にサーバーのリソースを短期的に増強させることが可能であり、利用されていないITリソースの維持コストは発生しません。

自前でシステムを準備する場合、常にユーザー数の成長を予測し、その予測を上回るITリソースを確保している必要があります。AWS では必要なときにITリソースを強化することにより、費用の無駄を防ぐことができます。このため、万が一ビジネスの成長実績が予測を下回ったとしても、適宜ITリソースを最適化することも可能です。

ピークに応じた動的ITリソースの変更を自動化

キャンペーンやメディア連動などによる突発的なピークにおいても、現行のサーバーリソース状態を監視し、あらかじめ定められた閾値を超過した場合に自動でサーバーリソースが増強される、といったことが実現可能になります。これにより、ビジネスの機会損失などを防ぐことができます。

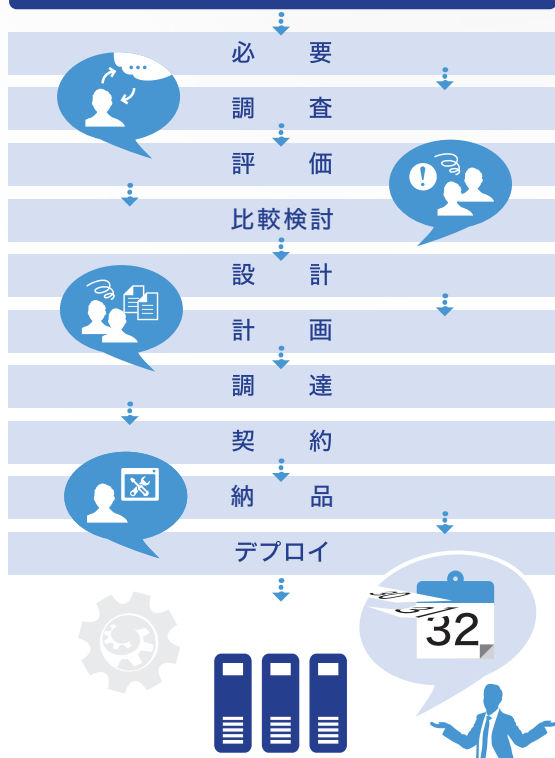


商機を逃さない俊敏性

オンプレミス(物理施設)

今までは

新しいインフラの構築は
複雑かつ遅くなりがち



納品まで**4週間**、構築で**2週間**...

クラウド

AWSなら

ワンクリックで
新しいインフラを用意

CLICK

- 新しいデプロイ環境
- 新しいテスト環境
- 世界各地のデータセンターに環境構築
- サーバースペック変更
- 1,000 サーバー追加・削除

初期費用
0円

従量課金型

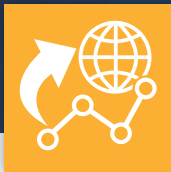
低価格で
サーバー
構築



数分で必要なITリソースが調達可能

素早いビジネス判断を可能にするITインフラ

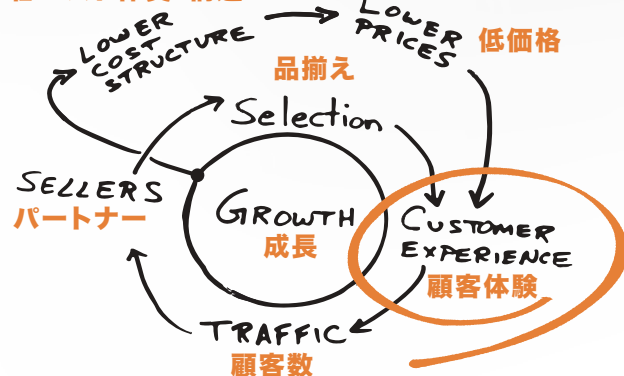
従来、オンプレミスでのITリソースの導入は、減価償却期間利用を続けることが前提であることから、高額な初期費用、緻密なキャパシティプランニングなどの計画が必要でした。また、サーバーを発注後、納品までに数週間以上を要し、納品後はエンジニアがデータセンターでの取り付け作業、ネットワーク設定、OSやミドルウェアのインストールなどを行う必要があり、サービス稼働までに多くの時間と労力を要し、さらに契約書や見積書、注文書などのやり取りも求められました。AWS では、管理者画面やAPI 経由の操作により、初期費用なし、わずか数分でITリソースの用意が可能となります。これにより、ビジネスチャンス逃すことのない、タイムリーなシステム構築を実現します。



最先端の技術をいつでも利用可能

Story of Amazon

低コスト体質・構造



AWS はお客様にご満足いただくことを大切にしています。高い品質、低コストはもちろんのこと、顧客体験に直結する

“サービスラインナップ”を重視しています。

サービスラインナップが増えれば増えるほど、お客様が AWS 上で実現できる事の幅が広がります。結果として、ご利用いただけるお客様の数が増え、サービスをプラットフォームとしたエコシステムが形成されます。多くのパートナーに AWS を用いてビジネスを展開いただくことで、さらにサービスラインナップは増えていきます。

すべてのお客様に還元される技術革新

現在、AWS では200を超えるサービスを提供しており、その90%以上のサービス、機能は全世界のお客様からのリクエストをもとに実装されています。

AWS をご利用いただくことで、国や地域にかかわらず、常に最先端のテクノロジーをご利用いただくことができます。

サービスラインナップの拡張がお客様にもたらすメリット

サービスの種類が豊富であれば、ユーザーは多くのコンポーネントを AWS のみで構築することが可能となり、サードベンダーとの打ち合わせを繰り返す必要がなくなるため、結果としてビジネスはスピードアップしていきます。また、多くのサービスを組みあわせて使うことで、ユーザーは既に存在しているITサービスを再開発する労力を使う必要がなくなり、その分ビジネスロジックの強化に時間をつかうことができます。

ご利用可能なサービス群

あらゆるワークロードをサポート

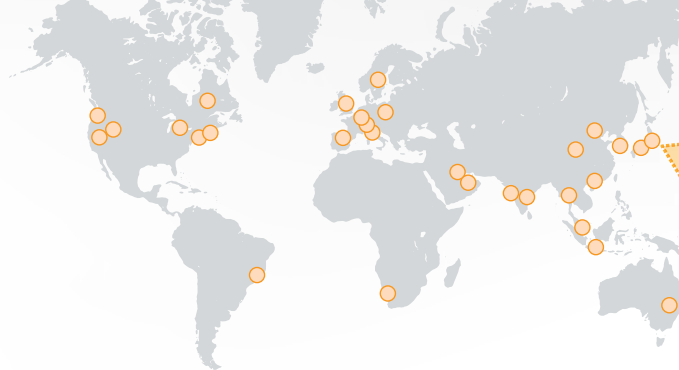
コンピューティング	機械学習	ロボティクス	開発者用ツール
移行と転送	モバイル	IoT	ビジネスアプリケーション
アプリケーション統合	ブロックチェーン	ARとVR	データベース
メディアサービス	Game Tech	セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス	エンドユーザーコンピューティング
ネットワークとコンテンツ配信	分析	量子コンピュータ	人工衛星
ストレージ	AWS コスト管理	マネジメントガバナンス	カスタマーエンゲージメント
サーバレス	コンテナ		



いつでも即時グローバル展開

グローバルインフラストラクチャ

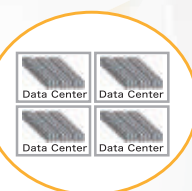
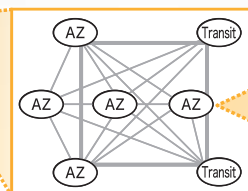
31のリージョン、99のアベイラビリティゾーン、
410+の Point of Presence



リージョンについて

AWS の「リージョン」は、アベイラビリティゾーン（データセンター群）（AZ）を束ねた設計となっています。

AZ間はAWSの専用線で接続
AZ間はほぼ1ms以下のレイテンシー



アベイラビリティゾーン (AZ) について

AWS の「アベイラビリティゾーン (AZ)」は、右図の様に、複数のデータセンターによって構成された、耐障害性を意識した設計となっています。

データセンター間は AWS の専用線で接続

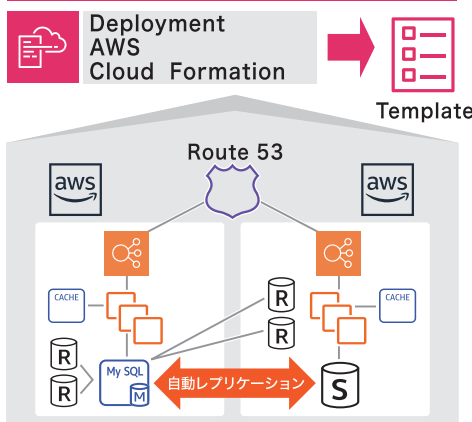
- どのリージョンも2つ以上のAZ
- AZは1つ以上のDCから構成

1つのDCは2つのAZに所属しない
6つのDCを持つAZも存在

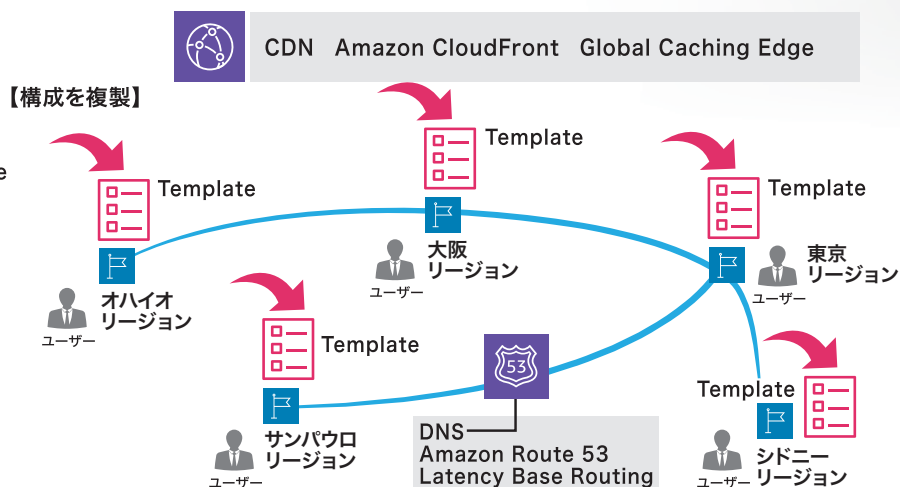
AZ内のDC間接続は気にしなくても良い
低レイテンシー / フル帯域で利用可能

スケールに応じて構成を拡張・再利用

構成のテンプレート化



グローバルデプロイメント



AWS におけるデータセンターの基本コンセプト

AWSはリージョンと呼ばれるサービス拠点をグローバルに展開し、アベイラビリティゾーン (AZ) という複数のデータセンター群で構成されます。リージョンを構成する AZはさらに1個以上の複数のデータセンターで構成されています。このため、単一リージョン内でデータセンターを分散した高可用な冗長システムを構築することができます。アカウントを開設した時点で、世界中のデータセンターにシステムが展開可能です。海外へのシステム展開は現地視察や現地データセンターとの契約など時間のかかる作業でしたが、AWS なら数分で作業が完了します。

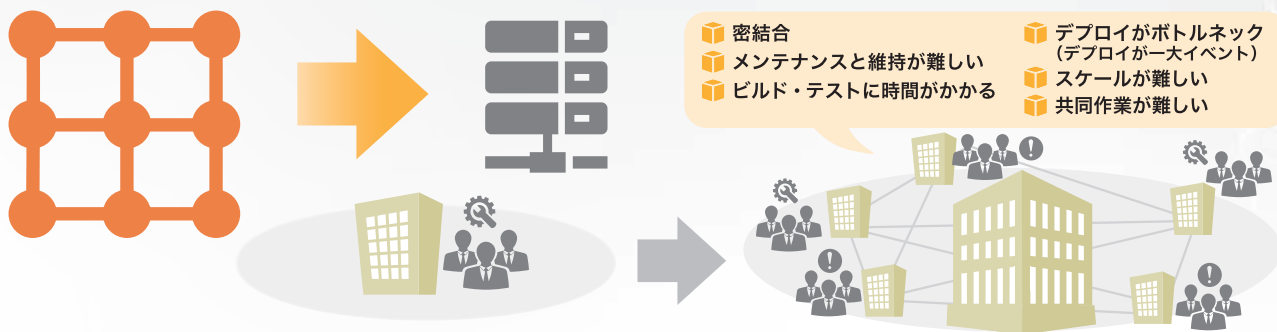
スムーズなグローバル展開

東京リージョンで構築したシステムをテンプレート化し、別リージョンや異なる AWS アカウントでシステムを再構築することが可能です。Amazon CloudFrontを利用すれば、東京リージョンから世界中のユーザーへ効率的なデータ配信を行う事ができます。また、複数リージョンに同じ構成のシステムを配置し、Amazon Route 53のロードバランサー機能を利用することで、ユーザーを最適なリージョンへ誘導できます。



開発速度の向上と属人性の排除

モノリシックアーキテクチャ(全体が1つのモジュール)で規模の拡大により生まれる問題



Story of Amazon



単一目的のサービスの集合体

すべてのサービスはAPI経由で接続

“マイクロサービス”

1枚岩のような堅牢なシステムは、立ち上げ当初は管理しやすく責任範囲が明確で、非常にメンテナンスしやすいシステムとなります。しかし、ビジネスの成長とともにシステムは複雑化し、長年の継ぎ足しにより構成は複雑化し、一部の限られた人のみがメンテナンス可能となります。Amazonも2000年初頭に同じ問題を抱え、ITがビジネスの成長を阻害する要因となりつつありました。それを受け、マイクロサービスアーキテクチャを導入し、各システムはHTTPSのAPIでのみ通信を行うこととするルールを社内を導入し徹底しました。結果としてAmazon グループでは年間、2016年時点で6,500万回を超えるデプロイを実現しています。

マイクロサービスアーキテクチャによる開発手法の進化

マイクロサービスアーキテクチャでは、システムはAPIを経由してのみ連携します。つまり、連携先のシステムが異なるOS、異なるデータベース、異なるフレームワークを用いていたとしても、ブラックボックスのままで自分たちのシステムの開発がすすめられるという利点があります。APIの挙動に影響を与えないバージョンアップは少ない人数の判断・承認のみでデプロイが可能となります。

ハードウェアに制限されない疎結合なシステム開発手法

マイクロサービスアーキテクチャはAWSの設計思想にも採用され、APIを通じて各サービスは連携しています。AWSでは年間3,000回を超えるバージョンアップや機能改修を行っていますが、デグレードによる障害はほぼ発生していません。システムを疎結合状態に保つことで、システムが巨大に成長しても管理しやすいモデルを実現しています。マイクロサービスアーキテクチャを前提でシステム開発を行うことで、随時追加されるAWSの新たなサービスの活用を柔軟に行うことも可能となります。



マネージド型サービスによる運用負荷の軽減

Story of Amazon



Two-pizza teams

Two-pizza teams

高速な意思決定を行うための
スモールチーム

[DevOps]

Amazon では、二枚のピザを分けられる人数の上限を組織、プロジェクト、開発チームに適用することで、意思疎通を容易にし、かつ意思決定の迅速化を図っています。開発チームでは、ITインフラ、サービス仕様、製品サポートなど、すべてに責任を持ち、単一チーム内において開発から運用までを統合しています。

サーバーレス、マネージド型サービスによる生産性の向上

マイクロサービスアーキテクチャを導入し、アプリケーションの柔軟性、俊敏性、拡張性を手に入れた場合、次に課題となるのはITインフラの管理コストとなります。高い生産性と開発されるサービスへの責任感が最大化されることを考えた場合、開発チームは垂直統合型にそのサービスすべてに責任を持つことが望ましい形態となりDevOpsという概念が生まれています。これはクラウドを活用したインフラの管理も含みます。

マネージド型サービスによるコストの効率化

仮想化されたコンピューティング、例えば AWS Lambda の利用はあらかじめCPU、メモリ、ストレージなどを指定して起動します。規模の経済、技術的イノベーションがもたらすコスト低下、自動的にコンピューティングリソースを増減可能なオートスケールやリソースそのものを増減可能なスケールアウト、スケールイン機能により高いコスト効率で利用いただくことが可能ですが、まだ削減可能な項目が存在します。CPU、メモリ、ストレージなどを常に100%利用することが困難であることから、余剰リソースが生まれます。一方、マネージド型サービスの利用、例えば Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) というストレージを利用すると、実際に保存されているデータ量に対してのみ課金が行われているため、さらに高いコスト効率の実現が可能となります。



高いセキュリティを確保

コンプライアンスプログラムの例

認証 / 証明	法律、規制、プライバシー	準拠 / フレームワーク
ASIP HDS C5 CMMC Cyber Essentials Plus DoD SRG ENS「高」 FedRAMP FIPS IRAP ISO 9001 ISO 27001 ISO 27017 ISO 27018 K-ISMS MTCS Tier 3 OSPAR PCI DSS レベル 1 SEC Rule 17-a-4(f) SOC 1 SOC 2 SOC 3 TISAX	日本のデータプライバシー (APPI) アルゼンチンのデータプライバシー (PDPA) オーストラリアのデータプライバシー (APP) CCPA - カリフォルニア CISPE CLOUD Act FERPA FOIPPA - フリディッシュコロンビア GDPR HIA - アルバータ HIPAA HITRUST 香港のデータプライバシー (PDPO) インドのデータプライバシー インドネシアのデータプライバシー IRS 1075 ITAR 韓国のデータプライバシー マレーシアのデータプライバシー (PDPA) NB PHIPAA - ニューブランズウィック ニュージーランドのデータプライバシー NL PHIA - ニューファンドランド & ラブラドル PHIA - ノバスコシア フィリピン のデータプライバシー PHIPA - オンタリオ PIPEDA - カナダ シンガポールのデータプライバシー (PDPA) スペイン DPA 認可 台湾のデータプライバシー (PDPA) タイのデータプライバシー (PDPA) 英国 DPA - 1988 VPAT / Section 508	NISC - 日本 医療情報ガイドライン - 日本 FinTech - 日本 CIS CJIS CSA EU-US Privacy Shield FFIEC FISC FISMA G-Cloud GxP (FDA CFR 21 Part 11) HITRUST ICREA MITA 3.0 MPAA NIST UK クラウドセキュリティ原則 Uptime Institute のティア

プログラムの対象は継続的に追加されています。最新のリストはウェブページをご参照ください。

<https://aws.amazon.com/jp/compliance/programs/>



責任共有モデル

お客様 クラウド内のセキュリティに対する責任	お客様のデータ		
	プラットフォーム、アプリケーション、ID とアクセス管理		
	オペレーティングシステム、ネットワーク、ファイアウォール構成		
	クライアント側のデータ暗号化とデータ整合性の認証	サーバー側の暗号化 (ファイルシステムやデータ)	ネットワークトラフィック保護 (暗号化、整合性、アイデンティティ)
AWS クラウドのセキュリティに対する責任	ソフトウェア		
	コンピュート	ストレージ	データベース
	ハードウェア / AWS グローバルインフラストラクチャー		
	リージョン	アベイラビリティゾーン	エッジロケーション

AWS のセキュリティ基本コンセプト

AWS は2006年のサービス開始時からクラウドコンピューティングの先駆者として、セキュリティを最優先事項としてお客様のイノベーションに迅速に対応可能なクラウドインフラストラクチャーを提供してきました。AWS では、セキュリティ機能の実装や厳格なコンプライアンス要件に対応し、さらに第三者機関による検証が行われています。

ただし、セキュリティとコンプライアンスは AWS とお客様の間で共有される責任です。サービスによって異なりますが、AWS がクラウド環境自体の責任を、お客様にはクラウド内のセキュリティに対する責任と管理を担っていただきます。この共有モデルは、AWS がホストオペレーティングシステムの仮想化レイヤーからサービスが運用されている施設の物理的なセキュリティに至るまでの要素を AWS が運用、管理、および制御することから、お客様の運用上の負担の軽減に役立ちます。

詳細については下記ウェブページをご参照ください。

AWS クラウドセキュリティ

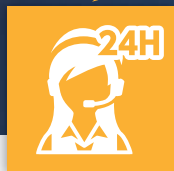
<https://aws.amazon.com/jp/security/>



AWS コンプライアンス

<https://aws.amazon.com/jp/compliance/>





24時間日本語によるサポート



24時間365日* 日本語によるサポート * ビジネスプラン以上での提供

AWS サポートでは、ツールやテクノロジー、そしてプログラムなどを組み合わせて、お客様がパフォーマンス最適化、コスト削減、イノベーションの推進をする際のサポートを提供しています。このサービスでは、お客様のクラウドにおける事業の迅速化を支援することで、お客様の時間を削減しコアビジネスに集中できるようにします。

AWS サポート

<https://aws.amazon.com/jp/premiumsupport/>



AWSサポートのラインナップ

- すべての AWS サービスをサポート
- **24時間365日**(ビジネスプラン以上)の**日本語**サポート
- お問い合わせ回数は**無制限**

			テクニカルアカウント マネージャー(TAM) のプール※2	テクニカルアカウント マネージャー(TAM)
		Trusted Advisor	Trusted Advisor	Trusted Advisor
	技術Q&A ✓ webフォーム ✓ 平日 9 ~18時 ✓ 最短12時間以内	技術Q&A ✓ webフォーム ✓ 電話 ✓ チャット ✓ 24時間365日 ✓ 最短1時間以内	技術Q&A ✓ webフォーム ✓ 電話 ✓ チャット ✓ 24時間365日 ✓ 最短30分以内	技術Q&A ✓ webフォーム ✓ 電話 ✓ チャット ✓ 24時間365日 ✓ 最短15分以内
料金Q&A	料金Q&A	料金Q&A	料金Q&A	料金Q&A
AWS re: Post※1	AWS re: Post	AWS re: Post	AWS re: Post	AWS re: Post
ベーシック	開発者	ビジネス	エンタープライズ On-Ramp	エンタープライズ


開発環境
本番環境

※1 AWS に関する技術的な質問に対して専門家監修の回答を提供するクラウドソーシング型のQ&A サービスです。
 ※2 お客様のお問い合わせ毎にテクニカルアカウントマネージャー(TAM)チームから担当者をアサインします。

ビジネスプラン以上の特徴

■AWSのエンジニアがお客様の課題解決を支援





お問い合わせはこちら
チャットでもご相談いただけます

<https://aws.amazon.com/jp/contact-us/aws-sales/>



アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア

<https://aws.amazon.com>

©2023, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

本ガイドの内容は、2023年3月現在の情報です。記載内容については変更の可能性があります。

2023.03